



子どもの思いを尊重する 多様な学びと交流の場

日野里山フリースクール 代表
山下 江津子さん

長男が小学校入学後まもなく不登校になり、社会の中に不登校状態にある子どもの居場所がほとんどないことに気づいて、同じ悩みを持つ不登校当事者とともに日野里山フリースクールをスタート。2022年から滋賀県日野町蔵王の古民家に拠点を定め、活動を展開している。

不登校状態にある子どもの多様な学びと交流の場となるのがフリースクールです。はっきりとした定義や枠組みはなく、学校での日々に疲れた子どもたちの回復を重視したスクールや学習を中心としたスクール、自然体験型のスクールなど、様々なところがあります。自然豊かな日野町蔵王の古民家で日野里山フリースクールを主催する山下江津子さんにお話を伺いました。

フリースクールって どんなところ？

フリースクールは、学校へ行くことにしんどさや違和感を感じている子どもたちが、同世代と過ごし、様々な形で学ぶ場所です。近年はオンラインで学べるスクールも増えてきました。

いまの社会には、不登校状態にある子どもの居場所がほとんどありません。子どもを一人で残して行けないため、仕事を辞めざるを得なくなり、「なぜうちの子は学校に行けないのだろう。育て方が悪かったのか」と自分や子どもを責める親御さんもいて、経済的な負担も増す中、世間からは白い目で見られ、外出すら難しくなるという悪循環が起こることもあります。

かつては不登校が「登校拒否」と呼ばれ、問題行動とされてきた時代もありましたが、2017年には教育機会確保法*が施行。子どもたちに多様な学びの機会を保障することが定められ、しんどいときには休息をとることと、フリースクールなど学校以外の場の重要性が認められるようになりました。

学校外の施設において、一定の要件を満たせば、在籍校での出席認定や成績評価の対象とすることがで

きるとされています。

フリースクールを利用する子どもが義務教育期間を終えたあとの進路については、一般の高校や通信制高校への進学、就職など様々です。高校卒業認定試験を経て、大学や専門学校へ進むケースもあります。

*不登校児童生徒に対する教育機会の確保、夜間等において授業を行う学校における就学機会の提供その他の義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等を総合的に推進するための法律。2017年施行。



🌱 フリースクールの長所は？ 何を学べるの？

フリースクールの長所は、毎日通うのではなく週に何回かなど、個々のペースで参加できること。そして、自分に合った形で、多様な学びを深められること。“フリー”といっても、ただ自由気ままに過ごすわけではありません。むしろフリーな分、子どもたち自身で物事を決めなければいけない場面がたくさんあります。当然、意見が合わず揉めることもあります。が、「人は人と交わる中で育つもの」です。ある程度の集団の中でしか経験できないことがあり、それこそが将来、社会で生きていくうえで大切な知見となります。

フリースクールでも子どもたちに負担のかからない範囲で学習時間を設け、ひとりひとりのペースに合わせて学習を行っています。午前中を学習にあて、午後から自由に過ごすなど、スクールによって様々です。

生活体験や自然体験を通じた学びもたくさんあります。例えば、日野里山フリースクールでは料理当番を設けていますが、レシピには「g」「ml」などの単位や漢字が出てきますし、何人分というところで掛け算も使います。生活の中で勉強の必要性を実感すると、学校に復帰したときも意欲的に学習に取り組むことができます。好奇心を育み、学ぶことの楽しさを知って、自ら学んでいく力をつけてほしいと願っています。

🌱 フリースクールの課題、 学校との違いは？

フリースクールの課題の一つは、公的な枠組みの外にあり、学校としての認定を受けていないため、資金援助を得るのが難しいことです。同じ都道府県内でも自治体によって助成の有無は異なります。団体の維持と人件費など運営経費を賄うため、大半のスクールは有料となります。入会金・参加費に加え、交通費や昼食代



「子どもたちが幸せに育っていけることは、地域や社会にとっても大きな意味がある」と話す山下さん(左)と教員免許を持つスタッフの玉崎落さん。



2023年4月休眠預金活用事業の審査に通り、古民家の改装などフリースクールを持続するための助成金を受けられることになった。地元の理解も厚く、農業体験の場を提供するなど、様々な形で協力してくれている。

がかかり、経済的な自己負担が生じます。「自分が学校へ行かないことで親に負担をかけている」と気を遣う子もいます。しかし、学校には公的資金により無料で通うことができるのに、不登校になれば自費で通わなければいけないというのはおかしな話です。誰でも、希望すればフリースクールへ通うことができる体制づくりが待たれます。

不登校状態にある子どもたちは、多くの場合、エネルギーを消耗して疲れ切っています。そんなとき、いきなり何かにチャレンジすることはできません。まずはゆっくり休んで、安心・安全に過ごせる場所を見つけ、慣れてきたところで、少しずついろいろなことにトライするという段階を踏むことが大切です。

フリースクールは学校復帰のみを目指すものではありませんが、日野里山フリースクールでは小1から来ていた子が、自然に体力・気力を取り戻し、自ら望んで4年生から学校に通いだした例や、中学受験をして私立の中学校に進学した例があります。親が良いと思う方向へ導くというより、子どもの自己決定を尊重することが肝要です。

フリースクールを選ぶ際は、方針や過ごし方が子どもに合うか、送迎できるか、あるいは子どもが自力で通えるか、よく確認して検討することをお勧めします。



▶ 「日野里山フリースクール」の
詳細はこちら